

【基礎研修(1)(2)講義科目】

区分	プログラム	講師* 敬称略、所属は収録時情報		収録	公開
基礎研修(1) 該当 9 科目	がん対策	厚生労働省健康局がん・疾病対策課	春名 健伍	2022年10月	2023年2月
	相談支援	愛媛大学医学部附属病院	塩見 美幸	2020年11月	2021年2月
	社会資源	国立がん研究センター東病院サポータティブケアセンター／がん相談支援センター	坂本 はと恵	2022年11月	2023年2月
	臨床腫瘍学	国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科	下井 辰徳	2020年6月	2021年2月
	緩和ケア	国立がん研究センター中央病院緩和医療科	石木 寛人	2021年10月	2022年2月
	精神腫瘍学	国立がん研究センター東病院精神腫瘍科	小川 朝生	2020年6月	2021年2月
	放射線治療	国立がん研究センター中央病院放射線治療科	稲葉 浩二	2022年10月	2023年2月
	薬物療法	国立がん研究センター中央病院腫瘍内科	野口 瑛美	2021年10月	2022年2月
	コミュニケーションスキル	大阪医療センター医療相談室	関根 知嘉子	2022年11月	2023年2月
基礎研修(2) 該当 23 科目	がん予防	国立がん研究センター社会と健康研究センター予防研究部	井上 真奈美	2020年6月	2021年2月
	がん検診	国立がん研究センターがん対策研究所	高橋 宏和	2021年8月	2022年2月

	診療ガイドライン・エビデンス	国立病院機構九州がんセンター 国立がん研究センターがん対策研究所	藤 也寸志 櫻井 雅代	2020年6月	2021年2月
	支持療法	国立がん研究センター中央病院 患者サポートセンター	藤井 恵美	2022年10月	2023年2月
	臨床試験	国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 国立がん研究センターがん対策研究所	中濱 洋子・ 石川 文子	2022年11月	2023年2月
	高齢者とがん	長野市民病院	横川 史穂子	2020年11月	2021年6月
	家族ケア	長野市民病院	横川 史穂子	2020年11月	2021年6月
	妊孕性	亀田メディカルセンター 臨床心理室 生殖医療科	奈良 和子	2021年10月	2022年2月
	AYA世代とがん	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻	竹之内 直子	2022年11月	2023年2月
	相談対応の質評価	国立がん研究センターがん対策研究所	志賀 久美子	2020年9月	2021年2月
	がん情報サービスの使い方	国立がん研究センター がん情報サービスサポートセンター	宮本 紗代	2021年11月	2022年2月
	ヘルスリテラシーと意思決定支援	聖路加国際大学大学院看護学研究科看護情報学分野	中山 和弘	2022年1月	2022年2月
	がんゲノム医療	国立がん研究センター中央病院 先端医療科	小山 隆文	2022年1月	2022年2月
	患者会・ピアサポーター	群馬大学医学部附属病院 がん相談支援センター	渡辺 恵	2022年11月	2023年2月

	在宅医療	誠心会井上病院	竹山 由子	2022年10月	2023年2月
	肺がん	国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科	新野 祐樹	2021年10月	2022年2月
	乳がん	国立がん研究センター中央病院 乳腺外科	小川 あゆみ	2022年10月	2023年2月
	大腸がん	国立がん研究センター中央病院 消化管内科	高島 淳生	2022年10月	2023年2月
	胃がん	国立がん研究センター東病院 消化管内科	小谷 大輔	2020年7月	2021年2月
	血液がん	国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科	棟方 理	2021年10月	2022年2月
	泌尿器がん	国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科	松井 喜之	2023年2月	2023年3月
	肝胆膵がん	国立がん研究センター中央病院 肝胆膵外科	水井 崇浩	2022年10月	2023年2月
	食道がん	国立がん研究センター東病院 消化管内科	小谷 大輔	2020年7月	2021年6月

【基礎研修(1)(2)講義内容詳細】

区分	プログラム	講義内容詳細	内容分類
基礎研修(1) 該当 9 科目	がん対策	<p>がんはわが国の死因の第 1 位であり、約 2 人に 1 人ががんになる。本講義では、国ががん対策基本法に基づいて策定しているがん対策推進基本計画と、第 3 期がん対策推進基本計画に沿った国のがん対策の概要を紹介する。具体的には、これまでのがん対策の経緯、第 3 期基本計画の概要、がん診療連携拠点病院等の指定要件、がんに関する相談支援・情報提供、地域連携、がん患者・経験者の就労支援を紹介する。</p> <p>【キーワード】 がん対策基本法、第 3 期がん対策推進基本計画</p>	基盤科目
	相談支援	<p>がん専門相談員は、患者や家族等の相談者がその人らしい生活や治療選択ができるように支援することを役割とする。本講義では、日本のがん対策の中でのがん専門相談員の位置づけを歴史的経緯を踏まえて説明した後、がん専門相談員にとって業務の指針となる、がん相談支援センターやがん専門相談員に求められる基本姿勢、International Cancer Information Service Group (ICISG)の“Core Values”、がん相談 10 の原則、がん相談支援のプロセスについて詳しく解説する。</p> <p>【キーワード】 がん専門相談員、基本姿勢、CoreValues、がん相談 10 の原則、がん相談支援のプロセス</p>	基盤科目
	社会資源	<p>がん専門相談員はアセスメントを通して、必要な社会資源を見極め、患者・家族が望む暮らしを実現する支援をする役割がある。近年のがん患者を取り巻く社会的な環境の変化やがん患者に対して活用できる各制度の概要、就労支援、紹介時の留意点などがん専門相談員が果たすべき社会資源の活用に必要な情報を幅広く解説する。</p> <p>【キーワード】 社会資源、公的制度、就労支援、高額療養費制度</p>	基礎科目
	臨床腫瘍学	<p>各種がんの治療を理解するためには、がんの基礎知識を踏まえた治療の基本的な考え方を理解しておく必要がある。本講義では、がんの発生要因、がんの性質、検査から治療までの流れとともに、近年の治療の流れであるプレジジョンメディシンについて概説する。</p>	基礎科目

	<p>【キーワード】ゲノム、遺伝子、発がんの要因、腫瘍、TNM分類、検査、手術、放射線治療、がんゲノム医療、プレジジョンメディシン</p>	
緩和ケア	<p>緩和ケアとは、生命を脅かす疾患に罹患した患者、家族、介護者の様々な苦痛を予測、予防、軽減し、QOLを高めることである。本講義では、緩和ケアの定義の変遷を概観し、緩和ケアの目標、対象、現状（病棟数や病床数）、基本的緩和ケアと専門的緩和ケアの相違、療養場所、疼痛の評価法、オピオイドの実際を紹介する。</p> <p>【キーワード】緩和ケアとは、緩和ケアの目標・対象、専門的緩和ケア、療養場所、強オピオイド</p>	基礎科目
精神腫瘍学	<p>がん患者・家族は、あらゆる時期において精神心理的苦痛を抱えている。精神心理的苦痛に対応するためには、その苦痛を的確にアセスメントをし、情報提供や情緒的サポートを提供するとともに、必要な専門的支援につなぐ必要がある。そのために必要な知識や支援の方法を概説する。</p> <p>【キーワード】精神腫瘍学、診断時からの支援、治療と一体となった支援、緩和ケア的アプローチ、精神疾患を持つ患者・高齢がん患者の支援、家族支援、尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築</p>	基礎科目
放射線治療	<p>放射線治療は、手術・化学療法と並んで、がんの三大治療の一つである。本講義では、放射線治療の目的や放射線治療の装置と特徴等の基本的知識、サイバーナイフや粒子線といった最新の放射線技術、各種がんにおける放射線治療の目的、放射線治療の流れとスケジュール、放射線治療の副作用と対策、そして費用について解説をする。</p> <p>【キーワード】放射線治療、IMRT、放射線治療装置、粒子線、根治治療、緩和治療、治療開始までの流れ、副作用、費用</p>	基礎科目
薬物療法	<p>がん薬物療法の目的、がん薬物療法薬の種類、がん薬物療法の実施、がん薬物療法薬の副作用について紹介する。</p> <p>【キーワード】全身療法、集学的治療、がんの根治、生存期間の延長、QOLの改善</p>	基礎科目

	コミュニケーションスキル	<p>相談に訪れるがん患者、家族らは身体的苦痛のみならず、がんやがん治療による心理・社会的苦痛を抱えている。相談員は主訴に対応するだけでなく、混沌とした状況に対話を通して整理、理解することが肝要である。本講義では、がん相談員として必要なコミュニケーションスキルの種類と方法、対象者理解の具体に加え相談員自身が自己知覚する重要性について紹介し、相談員として期待される役割を發揮するための知識・スキル・態度を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 コミュニケーションスキル、傾聴、質問、対象者理解、自己知覚</p>	基礎科目
基礎研修(2) 該当 23 科目	がん予防	<p>日本人における科学的根拠に基づくがん予防法として、喫煙、飲酒、食生活、感染、体型、身体活動に対する5つの健康習慣が、がんになるリスクをほぼ半減させることがわかっている。がん予防の大部分は日常生活の改善でできるため、私たちは巷の情報におどらされず、がん予防の考え方を正しく理解し、伝えていくことが必要である。</p> <p>【キーワード】 科学的根拠に基づくがん予防</p>	実践応用科目
	がん検診	<p>がん検診は適切な実施により確実な効果が得られることから重要な役割を担っている。一定の集団を対象として、がんに罹患している疑いのある者や、がんに罹患している者を早めに発見し、必要かつ適切な診療につなげることにより、がんの死亡者の減少を目指すものである。がん検診の基本的事項、関係する法と計画、検診の利益不利益、有効性評価、精度管理、注意点、相談員に期待する役割について等の講義である。</p> <p>【キーワード】 対策型がん検診、がん検診ガイドライン、がん検診受診率</p>	実践応用科目
	診療ガイドライン・エビデンス	<p>患者や家族は、科学的根拠に基づく信頼できる情報を入手することにより、その人らしい生活や治療選択が出来るようになる。本講義では、先ず私たちを取り巻く医療情報と、診療ガイドラインについて紹介する。その後、がん専門相談員が目指す情報支援、ヘルスリテラシー、相談者に合わせた情報の伝え方について考察する。</p> <p>【キーワード】 インターネット、書籍、エビデンス、診療ガイドライン、CQ形式、推奨グレード、情報支援、ヘルスリテラシー</p>	実践応用科目
	支持療法	<p>がん治療をおこなうにあたって、副作用や合併症の出現は不可避である。本講義では、先ずがん患者の多様な気がりや困りごとを、データに基づいて解説する。次に、手術療法・化学療法・放射線療法でおこりやすい副作用・合併症と、そ</p>	実践応用科目

	<p>それぞれの症状に対するケアや日常生活上の工夫について具体的に紹介する。また、近年注目されているアピアランスケアについても概説する。</p> <p>【キーワード】 がん治療、支持療法、副作用、合併症、悪心・嘔吐、末梢神経障害、皮膚障害、口内炎、脱毛、リンパ浮腫、アピアランスケア</p>	
臨床試験	<p>臨床試験は未来の患者さんに対して最適な治療法を明らかにすることを目的とした計画的実験である。どのように治療法が確立されていくのか、臨床試験の段階、臨床試験に参加する利益・不利益、臨床試験の種類等を標準治療と対比しながら概説するとともに、臨床試験についての相談を受けたときの相談員としての留意点を解説する。相談の中で臨床試験を探す患者や家族の情報収集をサポートするにあたり、どこを活用し調べていくのか、がん情報サービスを用いて臨床試験を探す際の方法や留意点について解説する。</p> <p>【キーワード】 臨床試験、標準治療、治験、先進医療、患者申出療養、臨床試験の探し方、がん情報サービス、jRCT</p>	実践応用科目
高齢者とがん	<p>がんの年代別割合は70歳以上の高齢者が半数を超える。高齢者のがん治療ではリスク評価が確立しておらず、治療の差し控えや不適切な意思決定も懸念され、支える家族の負担も大きい。高齢者総合的機能評価(CGA)や高齢がん患者の特徴を概説し、相談支援の実際を考えていく。</p> <p>【講義キーワード】 フレイル、高齢者総合的機能評価(CGA)、認知症、意思決定支援</p>	実践応用科目
家族ケア	<p>がん患者のみならず、家族も患者同様にまたそれ以上に影響を受け負担が生じる。家族は、患者を援助する立場であるとともに援助を必要とする立場でもある。がん患者の家族に生じる心、体、暮らしを概説し、家族支援のアセスメントについて学ぶ。</p> <p>【講義キーワード】 第2の患者、家族アセスメント、対応能力、発達課題、適応、情報、セルフケア機能</p>	実践応用科目
妊孕性	<p>第3期がん対策推進基本計画には、小児がん、AYA世代のがん対策、ライフステージに応じたがん対策として生殖機能温存が含まれており、生殖機能温存等の情報提供、相談支援、診療体制の整備が求められると明記されている。2018年には地域がん診療連携拠点病院の指定要件の中に、がん相談支援センターの機能としてがん治療に伴う生殖機能の影響や妊孕性温存に関する相談に対応する事が含まれた。妊孕性温存の相談において大切な事は、がん患者が適切な時期に正確な情報提供をされ、がん治療施設、生殖医療施設、多職種からの</p>	実践応用科目

		<p>支援を受けながら、妊孕性温存についての意思決定支援を行うことである。</p> <p>この講義では、それらの支援を行うための基本的な知識、方法、助成金の制度、そして心理支援について解説する。</p> <p>【キーワード】がん・生殖医療、がん・生殖医療ガイドライン、妊孕性（生殖機能）・妊孕性温存療法について、がん・生殖医療を行っている施設、がん・生殖医療の助成金、がん・生殖医療の心理支援</p>	
	AYA 世代とがん	<p>AYA 世代への支援については、令和 4 年 8 月の「がん診療連携病院などの整備に関する指針」および「小児がん拠点病院などの整備に関する指針」にも明記され、施設や地域において連携して取り組む必要がある。本講義では、AYA 世代の特徴、治療上の問題、患者ニーズ、就学・就労支援、子ども（親）への伝え方、晩期合併症、長期フォローアップについて概説する。</p> <p>【キーワード】AYA 世代、AYA 世代患者のニーズ、就学支援、就労支援、晩期合併症、長期フォローアップ</p>	実践応用科目
	相談対応の質評価	<p>がん相談支援センターで求められてる品質基準を満たすためには、品質管理と品質保証が重要である。本講義では、それぞれの具体的な内容を概説し、特に相談対応の質の保証 (Quality Assurance) について、がん相談対応評価表が作られた目的や経緯と使用方法やルール、自施設で相談対応モニタリングを行う際の準備や進め方について紹介する。</p> <p>【キーワード】組織における品質管理と品質保証活動、Cancer Information Service (CIS) のための“Core Values (基本姿勢) ”、がん相談 10 の原則、がん相談対応評価表、がん相談対応モニタリング</p>	実践応用科目
	がん情報サービスの使い方	<p>がん情報サービスウェブサイトは、相談員にとって情報支援の重要ツールである。また、確かで安心安全なサイトとして、相談者との共通言語ともなりうるものである。2021 年のサイトリニューアルを機に、患者家族が主体的に意思決定できる一助として活用できるよう、サイトの情報収集の仕方、相談支援に活用する具体例などを解説する。</p> <p>【キーワード】がん情報サービスとは、確かながんの情報、がん情報サービスウェブサイトの活用法</p>	実践応用科目

	ヘルスリテラシーと意思決定支援	<p>ヘルスリテラシーとは、健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であり、生涯を通じて生活の質を維持・向上させるものである。日本人はヘルスリテラシーが低く、健康情報を評価、活用する「意思決定」が困難である。自律的な自己決定を支援するためのシェアードディシジョンメイキングや最新の意思決定ガイドを紹介する。</p> <p>【キーワード】ヘルスリテラシーとは、日本人のヘルスリテラシー、がん情報の質と評価、意思決定、シェアードディシジョンメイキング、意思決定支援、自己決定</p>	実践応用科目
	がんゲノム医療	<p>がんゲノム医療は第3期がん対策推進基本計画の中に明記され、ゲノム医療を必要とするがん患者が全国どこにいても受けられるような体制整備が目指されている。本講義では、がん遺伝子・遺伝子パネル検査、検体、検査後の治療選択について紹介する。</p> <p>【キーワード】がんゲノム医療の提供体制、遺伝子、遺伝子パネル検査、リキッドバイオプシー、未承認薬・適応外薬</p>	実践応用科目
	患者会・ピアサポーター	<p>がん患者（サバイバー）は、だれかを支えるエンパワメントの種を持っており、その力を発揮できるような環境づくりが求められている。本講義ではその環境づくりのひとつである、がんサロンやピアサポーターの個別面談等医療機関で取り組むピアサポート運営に関して、場がもたらす効果や参加者とともに作り上げられるサロン作りの実践例、私たちががん相談支援センターの役割等を解説する。</p> <p>【キーワード】ピアサポート、ピアサポーター、がんサロン</p>	実践応用科目
	在宅医療	<p>コロナを契機に在宅医療や在宅看取りへの関心が高まっている。本講義では、相談員に知ってほしい在宅医療で利用が可能なサービスの実際、介護保険制度と活用、在宅看取りの現状について紹介する。</p> <p>【キーワード】在宅医療、介護保険制度、訪問看護、自宅、看取り</p>	実践応用科目
	肺がん	<p>肺がんは日本人に多いがんのひとつで、男性の死亡率としては最も多く、女性では大腸がんについて2番目に多い、未だ予後が不良ながんである。根治を目指した治療では手術や化学放射線治療が選択され、延命治療としては薬物療法が選択される。薬物療法は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの薬剤の開発が今後も期待される。今回は肺がんについての一般的な経過について概説する。</p> <p>【キーワード】肺がんを理解するための基礎知識、肺がんの検査・診断、肺がんの治療</p>	各論専門科目

乳がん	<p>乳がんの疫学、検査、診断、治療、検診について紹介する。また、遺伝性乳がんや妊孕性温存についても説明している。</p> <p>【キーワード】乳がん、遺伝性乳がん、妊孕性温存</p>	各論専門科目
大腸がん	<p>ここ 50 年で大腸がんによる死亡数は約 10 倍増加している。本講義では、大腸がん部位別発症頻度や大腸癌の死亡数・リスク、診断や分類等についてまず解説する。次に、進行度別治療法を紹介した上で、大腸がんの治療法を具体的に説明する。手術では内視鏡や人工肛門増設術等について、化学療法では用いられる薬剤の成績と副作用について、最後に一般的な質問事項について説明する。</p> <p>【キーワード】内視鏡、内視鏡的治療、ストーマ、術後補助療法、切除不能再発大腸がん、副作用、緩和ケア</p>	各論専門科目
胃がん	<p>胃がんは男女共に頻度の高いがんの 1 つで、がんの死亡数では男性第 2 位、女性第 4 位となっている。本講義では、先ず胃がんを理解するための基礎知識として、死亡数・生存率・危険因子を紹介する。その後、検診・診断・進行度分類を含めた胃がんの診断について、治療アルゴリズム、各治療の内容を紹介する。</p> <p>【キーワード】胃がんを理解するための基礎知識、危険因子、検診、進行度分類、治療アルゴリズム、手術、薬物療法、放射線治療</p>	各論専門科目
血液がん	<p>本講義では血液がんの三大疾患である白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の検査、病態および治療の概論を解説する。血液がんは多くの病型が存在し、予後や治療方針もそれぞれ異なる。近年新たな分子標的薬が数多く登場し治療効果の改善が見られている一方、再発・難治性の場合の治療成績は十分とはいえず、今後の治療開発が期待されている。</p> <p>【キーワード】血液がん、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫</p>	各種専門科目
泌尿器がん	<p>泌尿器がんでは、前立腺がん・膀胱がん・腎臓がんのそれぞれの特徴を紹介する。これら 3 つのがんの疫学・検査と診断の流れ・臨床病期分類・治療選択・治療にともなう副作用や合併症について解説する。前立腺がんでは監視療法や手術支援ロボット、IMRT や粒子線・組織内照射、膀胱がんでは膀胱内注入療法や尿路変向、腎がんでは凍結療法や新しい分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等、各がんでの特有の事項を紹介する。</p> <p>【キーワード】監視療法、手術支援ロボット、IMRT、粒子線、組織内照射、内分泌療法、膀胱内注入療法、尿路変向、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各種専門科目

	肝胆膵がん	<p>肝がん、胆道がん、膵がんは、いずれも難治性のがんである。本講義では、これら3つのがんの原因や診断・治療について、それぞれ概説していく。具体的には、肝がんでは肝炎と肝がんの関連、ラジオ療法等の局所治療を含めた治療法、医療費、胆道がんでは診断、治療法の選択と内容（特に化学療法の進歩）、膵臓がんでは診断、治療を切除例・局所進行例・遠隔転移例・免役療法にわけて解説する。</p> <p>【キーワード】肝がん、肝炎、局所療法、胆道がん、膵がん、免疫療法</p>	各種専門科目
	食道がん	<p>食道がんは男性に多いがんとして知られており、がん死亡数では男性第8位、女性第15位となっている。本講義では、先ず食道がんを理解するための基礎知識として、死亡数・生存率・危険因子を紹介する。その後、検診・診断・進行度分類を含めた食道がんの診断について、治療アルゴリズム、各治療の内容を紹介する。</p> <p>【キーワード】食道がんを理解するための基礎知識、危険因子、検査、進行度分類、治療アルゴリズム、手術、薬物療法、放射線治療</p>	各種専門科目